

教育実習報告を手がかりとした教育実習事前事後指導の検討

教養教育センター 桑村佐和子、金子劭榮

1. はじめに

本学では理科と農業の高等学校（以下、高校）の教員免許が取得できる。教職課程のカリキュラムでは、現在、その仕上げとして4年次に教育実習が配置されている（今後、「教職実践演習」が4年次後期に配置される予定である）。これまでに1期生22名、2期生14名、合計36名の学生が教育実習を経験した。教育実習では現実の高校教育の場で、高校の教諭からの指導や生徒とのさまざまな交流から多くのことを学ばせてもらうことができたようである。

ここで、これまでの教育実習の実施体制、実習内容等を報告し、教育実習事後指導等での学生の教育実習報告を手がかりとして、今後の教育実習事前事後指導の改善方法を検討する。

2. 本学の教育実習(事前事後指導を含む)の実施体制

教育実習は言うまでもなく、高校の教職員と生徒の、2週間という長期にわたる協力によって実施できるものである。本学でも、教育実習事前事後指導は「教職に関する科目」を担当する教員2名が行っているが、教育実習全般にわたっては、教職課程委員会を中心として、学科等を問わず全学の教員が協力して運営にあたっている。その内容は以下の通りである。

(1) 教育実習協力校への依頼

教育実習の高校への申し込みは、実習の約1年前、学生が2年次の3月～3年次5月頃に開始されている。高校では、教育実習の指導効果も考慮して、教科・科目毎に受け入れ人数に制限を設けている場合もあり、高校への実習申込者が多い場合などは抽選、面接等によって受け入れを断る場

合がある。そのような場合は大学では、石川県教育委員会や本学近隣の県立高校、また農業科を有する高校など、関係各位の協力を得て実習協力校を探し、受け入れてもらっている。実際に内諾をいただけるのは実習予定学生が3年次に入ってからであり、高校によっては高校の夏休み期間中に結果が通知されることもある。高校からの内諾の連絡を受け、本学からは文書により正式に依頼し、内諾書をいただいている。学生が4年次になるとすぐに、学生の単位取得状況（見込みを含む）、体調等を確認して、高校に改めて正式に依頼をしている。

(2) 実習内容

教育実習では、高校教諭の授業を参観させてもらったり、自分たちでも授業を担当させてもらったり、生徒指導の一環としてクラス担任の手伝いをさせてもらうなど、高校教育のさまざまな場面での活動を経験している。特に、学生それぞれに指導担当教諭を決めてもらっており、学生は毎日教育実習ノートに日誌をつけて、教諭の指導を受ける。

授業参観は教科にかかわらずに参観させてもらい、授業の進め方、生徒との関わり方などの学習をさせてもらう。授業の参観にあたっては、当該の授業担当教諭の許可を受け、授業後は必要に応じて授業担当教諭から指導を受けている。

研究授業等は、ほとんどの学生が理科で実習させてもらうが、その中でも化学と生物で授業を担当させてもらうことが多い。基本的には、学生の希望通りの科目で行っているが、高校の都合によって科目が変わることもある。また、理科総合と化学といったように、複数の科目を担当した学生もこれまで6名いる。さらに、理科だけではな

く、総合的な学習の時間も担当させてもらった学生もいる。

農業で実習した学生については、1期生は測量、農業土木、農業情報、地球環境化学、環境化学基礎等で、2期生では野菜の基礎について授業を担当した。学生が授業を行うにあたっては、授業前には学習指導案の作成、授業後には指導教諭から指導を受ける。最終の研究授業では、指導教諭以外の先生方、本学教員にも参観してもらい、指導を受ける。

学生たちは、授業以外にそれぞれクラスを担当させてもらい、ホームルームでの指導も行わせてもらっている。また、掃除や放課後の部活動にも参加したり、実習生が高校生に大学のことや受験勉強などについて話をする機会を設けた高校もあり、そこで生徒たちに話をするという経験をした学生もあり、高校生とさまざまな場面で接触することができたようである。

（３）教育実習に関わる指導

① 教育実習中の指導

教育実習の内容は上記のように多岐にわたるが、実習中、学生は全般にわたって指導教諭を中心とした高校教諭の指導を受けている。本学の教員は実習生の卒業研究指導の教員等が高校での研究授業に参加し、授業後に実習生を指導している。また、その教員は、高校の指導担当教諭等から実習生の様子をうかがい、自身の判断とともに、教職課程員会に実習の状況を報告している。この情報は単位認定の判断資料の一つとされている。

② 教育実習事前事後指導

教育実習にあたっては、教育実習事前事後指導が行われる。事前指導では、教育実習の目的と実習生の心構え、実習ノートの使用法、実習中の大学との連絡の取り方など実習要領等を確認している。特に、元高校教諭による講話によって受け入れ側(高校)から見た教育実習の位置づけを学ばせ、教育実習中の心構えをそれぞれに考えさせ、実習中に自覚的に行動できるように促している。

教育実習事後指導では、実習生に実際に行った実習内容とともに、実習から学んだことを発表さ

せ、実習生同士で改めて教職について考えさせている。それぞれの実習内容には違いがあるため、互いの経験からも学ぶことがある。最後に、それぞれの具体的実習内容を文章化し、報告書（『2008年度教育実習報告』（2008年7月）、『2009年度教育実習報告』（2009年11月））としてまとめている。

3. 教育実習事後指導での報告等から明らかとなった課題と改善方法

教育実習事後指導での発表とその後作成した報告書などによると、実習生は高校教諭の多忙さに驚き、教育に対する真剣さや、日常的な研鑽に尊敬の念を覚えて帰ってくるようである。指導教諭への感謝とともに、教職への希望を強めた学生もいる。しかし、教職は狭き門であり教職に就くことは至難の業であるため、もし教職への夢は叶わなくても、教育実習で学んだことを今後に生かしたいとの感想を記す者もいる。一方で、自己の教員への適性について悩む者、専門性の低さを認識し大学院進学後に目指したい、とする者もいる。

そのようなさまざまな教育実習事後指導等での感想から明らかになってきた教育実習事前事後指導の課題の一端を挙げ、その方策を考えてみることにする。

（１）模擬授業の充実

学生が教育実習校に行くと、教員養成系の大学に在籍する学生などとも一緒になり、その実習経験の豊富さに圧倒されるようである。予備校等でのアルバイト経験が豊富な学生になると、チョークの使用法など教育方法の一端には現役の高校教諭にも参考になることがあるようである。翻って本学の状況を考えると、「教職に関する科目」は1・2年次に集中しており、3年次には教育法の授業が選択可能ではあるものの、専門科目の実験等が集中しているために履修する学生は少ないのが実状である。そのため、実習後の学生からの要望で最も多いのが、事前に模擬授業をもっと多くしてほしいというものである。教員養成系の大学では、4年次の教育実習までに中学校等での教

育実習を経験してきており、また4年次での実習期間も3～4週間である（本学では、高校の教員免許しか取得できないので、実習期間を2週間としている）。模擬授業を多少増やしたところで、その差は埋めがたいが、高校の協力を得て授業参観をさせてもらったり、高校に限らず理科支援員などの制度を利用しながら、希望する学生に教育現場での実習をする機会を与えることはできるだろう。また、これまでの実習生が実習として担当してきた理科や農業の内容に関する模擬授業を、事前指導の一部に入れていくことも考えられるが、授業時数の関係でかなり難しいため、授業とは別に考えなければいけないかもしれない。

また、一方で、教員養成系大学以外でも教員を養成するという、開放制の教員養成制度の良さとして、学生が専門知識を深く学んできていることがある。そのような自身の持つ専門知識を授業に生かす方法について、事前に研究する機会を設けることも考えたい。

（2）教育実習への心構えに関する説明

先述のように、教育実習は4年次、特に基本的に前期に設定されている。その理由の1つは、高校で実習するためには、それまでの授業を通して専門性を磨いてからでなければ実習に耐えられない、ということがある。つまり、高校生を対象とする教育実習の場合には、実習するための教授内容もそれなりに高度であり、教育実習生の知識は高校生のそれを圧倒するだけのものが必要である。また、前期であるのは、高校側の教育上の都合もあるが、公立の教員採用試験が7月ごろから始まるため、その前には実習を終わらせておいた方がよい、といった事情がある。

しかし、学生によっては4年次前期のこの時期には、大学院進学のための受験勉強等に集中したいと考える者もあり、3年次にできないかとの訴えがあった。最近では、事前に上記のような説明をしておいたこともあり、直接教員に訴える学生は少なくなっている。しかし、これ以外のことも含め、教育実習の高校生に与える影響、教員採用試験との関係についてなど、どのような説明が学

生にとって必要なかを明らかにし、繰り返し行っていく必要があるのかもしれない。

（3）教育実習に関する事前知識を得る機会

教育実習はどの学生にとっても初めて経験することであったために、その期待感と同時に不安感は大きなものであったようである。それに関しては、1期生に対しては教員から説明するに過ぎなかったが、2期生に関しては、1期生から個人的に、あるいは報告書を通して情報が与えられるようになった。このような上級生の経験談は、学生にとっても重要な情報源であろう。

これまで、教育実習事後指導の報告は、教員を除くと、その年度の教育実習に行った、あるいはこれから行く学生に対してのみ行われてきた。これをより下級生にも開放することによって、教育実習とはどのようなものなのか、そして教育実習に行くために前もって何を学んでおく必要があるのかなどを知る機会となるのではないだろうか。